

(電子メール施行)
農技第1383号
平成27年 9月25日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察予報第5号を發表します。

平成27年度病害虫発生予察予報 第5号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並 (一部やや多)	平年並 (一部やや多)
	ヒメトビウンカ	平年並 (一部やや多)	平年並
	トビイロウンカ	やや少	やや少
ダイズ	立枯性病害	平年並	平年並
	葉焼病	平年並	平年並
	べと病	平年並	平年並
	紫斑病	やや少	少
	ヒメサヤムシ類	平年並	平年並
	フタスジヒメハムシ	平年並	平年並
	吸実性カメムシ類	平年並	やや少
ダイズ・野菜等共通	ハスモンヨトウ	平年並	やや少
アブラナ科野菜共通	ハイマダラノメイガ	平年並	やや少

(9月19日から10月18日までの天候見通し)

平成27年9月17日

大阪管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり低い状態が続く見込みです。

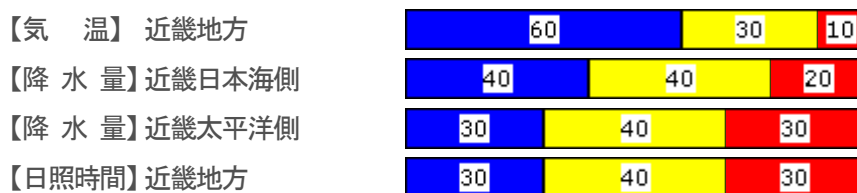
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、低い確率60%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。

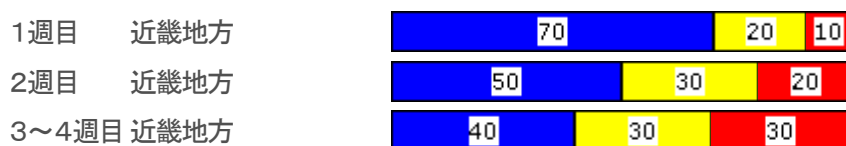
週別の気温は、1週目は、低い確率70%です。2週目は、低い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 9月19日(土)~10月18日(日)
- 1週目 : 9月19日(土)~ 9月25日(金)
- 2週目 : 9月26日(土)~10月 2日(金)
- 3~4週目 : 10月 3日(土)~10月16日(金)

発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病（穂いもち）】

- (1) 予報の内容 発生量： 年並（一部やや多）
- (2) 予報の根拠
- ア 9月中旬の加西市における県予察ほ調査では、葉いもち、穂いもちともやや多い発生であった。
- イ 現地ほ場では年並の発生であったが、一部中山間地などで発生がやや多かった。
- ウ 1か月予報によると向こう1か月の気温は低く、降水量は年並と予想されており、現況で推移すると思われる。しかし、葉いもちの目立ったほ場、多肥により葉色の濃いほ場、中山間地の日照の少ないほ場 などでは発生がやや多くなると予想される。

2 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量： 年並
- (2) 予報の根拠
- ア 9月中旬の発生は概ね年並であったが、加西市の県予察ほ調査では、捕虫網によるすくい取り10回振りで虫数137頭(前年75頭)とやや多い発生であった。
- イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は低く、降水量は年並と予想され、本虫の発生はイネ収穫時までの気象条件から現況で推移すると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 本虫は、イネ縞葉枯病を媒介する可能性があり、今季本病の多発がみられた地域においては、以下のような対策を実施し、翌年のヒメトビウンカの発生を抑えることに努める。
- ① イネ収穫後の耕起：刈り取り後に生じるひこばえは、ヒメトビウンカの生息場所となるほか、イネ縞葉枯病ウイルスの温床となるので、イネ収穫後は株をすみやかにすき込む。
- ② 2月末までにほ場の耕起、畦焼き：本虫は、主にイネ科雑草で越冬しているので、冬季の耕起、畦焼きは効果的な防除対策である。
- ③ 4月下旬から5月上旬にほ場耕起：春季のイネ科雑草は、本虫の越冬明けの好適な産卵場所となるため、それまでにすき込んでおく。

2 【トビイロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量： やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 加西市の県予察ほ調査では、捕虫網によるすくい取り、払い落としでの発生は確認されていない、県東部の1ほ場から成虫が確認されているが密度は低い。
- イ 県下3箇所（加西市、朝来市、南あわじ市）に設置している予察灯では、南あわじ市において8月25日（♂）26日（♀）に飛来を確認している。
- ウ 1か月予報によると向こう1か月の気温は低く、降水量は年並と予想され、本虫のこれまでの飛来・発生状況から坪枯れが発生する可能性は低いと考えられる。

ダイズ

1 【立枯性病害(主に茎疫病、黒根腐病)】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

ア 9月中旬の県予察ほ調査では茎疫病の発生は認められなかったが、病害虫防除員等による現地調査では、本病の発生圃場率は、21.9%であった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は低く、降水量は平年並と予想されており、茎疫病、黒根腐病ともに現況の発生で推移すると考えられる。

2 【葉焼病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

ア 9月中旬の県予察ほ調査では発生は認められなかったが、病害虫防除員等による現地調査では、本病の発生圃場率は、21.9%であった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温低く、降水量は平年並と予想されており、本病は現況の発生で推移すると考えられる。

3 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

ア 9月中旬の県予察ほ調査では発生は認められなかったが、病害虫防除員等による現地調査では、本病の発生圃場率は、3.1%であった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温低く、降水量は平年並と予想されており、本病は現況の発生で推移すると考えられる。

4 【紫斑病】

- (1) 予報の内容 発生量： やや少
(2) 予報の根拠

ア 9月中旬の県予察ほ調査では、発生は認められなかった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は低く、降水量は平年並と予想されており、本病はやや少ない発生で推移すると考えられる。

5 【ヒメサヤムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

ア 9月中旬の県予察ほ調査では、25株当りの被害カ所数は2カ所(平年4.6カ所)と平年並の発生であった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は低く、降水量は平年並と予想されることから、発生量は現状で推移すると考えられる。

6 【フタスジヒメハムシ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月中旬の県予察ほ調査では、10株当たりの虫数は5頭（前年2頭）と前年にくらべてやや多いかったものの、全体的には平年並の発生であった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は低く、降水量は平年並と予想されており、現況の発生で推移すると考えられる。

7 【吸実性カメムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月中旬の県予察ほ調査では、少数のマルカメムシの発生が認められただけであったが、今後莢の成熟に伴い、ホソハリカメムシの発生が予想される。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は低く、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 今後、ダイズは子実肥大終期を迎えるが、カメムシ類の加害は継続するので、発生に注意して状況に応じて防除を実施する。

イ クズ等マメ科雑草が繁茂している環境においては、マルカメムシが多発する。直接子実を加害するおそれは低いが、多数の寄生を受けると生育不良や青立ちの原因になるので注意する。

ウ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

ダイズ・野菜等共通

1 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 加西市（県立農林水産技術総合センター）におけるフェロモントラップの半旬毎の誘殺数では、9月2半旬に216頭（平年291頭）、同3半旬44頭（平年275頭）と9月中旬としては、やや少ない発生であった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は低く、降水量は平年並と予想されており、今後、本虫の増殖に好適な作物の作付けが拡大していくことから、平年並の発生になることが予想される。

アブラナ科野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 加西市（県立農林水産技術総合センター）におけるクレオメを用いた9月中旬の発生状況調査によると、寄生シュート（花枝）率が約3.0%で前年に比べやや低い寄生率であった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は低く、降水量は平年並と予想されており、今後は、しばらくは、アブラナ科野菜の作付に伴い本虫の発生が続くと考えられる。

防除上の留意点

ア キャベツなどアブラナ科野菜の育苗期および定植直後の加害は致命的なので、不織布や寒冷紗などにより本虫の飛来・産卵を避ける。

イ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。兵庫農薬情報システム（<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>）

*** この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)**